

幼児はどのように文字を使用して遊んでいるのか —領域「環境」における文字に注目して—

How are toddlers Playing with Characters?

佐藤 智恵

要旨

本研究では、領域「環境」の項目の中から文字に注目し、幼児期の遊びの中で文字がどのように使用され、その使用がどのように遊びの幅を広げているのかについて明らかにすることを目的とした。方法については、幼児の描いた絵や文字の分析に併せ保育実践の観察や保育者への聞き取りなどを行った。その結果、幼児の文字を使用した遊びには、(1) 絵と文字の併用による遊び、(2) 文字を書く満足感を味わう、(3) 他者を意識した文字があることが明らかになった。その中で、文字を使用することで自分のイメージや気持ちを明確に表現したり、他者とつながったり、自分のやりたいことを深めるなど、文字を使用することによる遊びの広がりが見られた。

キーワード：保育内容領域「環境」 幼児 文字遊び

I. 問題と目的

平成29年、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が同時に改訂された。そこでは、日本のどの幼児教育施設でも同質の幼児教育、保育が受けられるようにというねらいの下、特に3歳以上児については、幼稚園、保育所、認定こども園が共通したねらいと内容によって保育を行っていくことが明文化された。新しい幼稚園教育要領などでは、「資質・能力」の3つの柱、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が示され、主体的・対話的で深い学びが求められ、小学校教育との接続が意識されるという改訂となった。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿では、これらを小学校教育と共有化することで、スムーズな接続が目指されている。そして、幼児教育の修了に向けて指導に力を入れるべき点として10の姿が挙げられている(無藤, 2017)。この10の姿は、幼児期の終わりまでに目指す姿という点から、小学校就学にあたって必要とされる様々な能力の獲得と捉えられる可能性があるが、それは決して小学校教育の前倒しを行うものや、子どもの育ちの到達目標などというものではなく、普段の生活や遊びの中での指導の方向性を示すようなものとなっている。

幼稚園教育要領などの改訂のうち、保育内容については従来通り5領域とされ、3歳以上児の保育内容に関しては大きな変更はなかった。領域「環境」はこれまで通り、自然事象、物の性質や仕組み、動植物、地域社会、身近な物や道具、数量・図形、標識・文字、園内外の行事などを扱う領域とされ、それらを幼児が生活の中に取り入れ、好奇心や探求心を持ち、親しみをもって関わり、自分で考えたり工夫したりすることが求められている。前述した幼児期の終わりまでに育ってほしい姿においては、特に領域「環境」に該当するものとしては「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」が挙げ

られる。

本研究では、領域「環境」で取り上げられる項目のうち、文字に着目する。10の姿にもあるように、文字は小学校就学以降の子どもの学習と深いつながりがあり、文字を使用した保育内容は、ともすれば、幼児教育・保育の中で小学校教育の前倒しになってしまう可能性も含んでいる。小学校教育とのつながりが重視されている現在、幼児教育・保育における文字あそびで、なにを育もうとしているのかを明確に示す必要がある。

これまで幼児期、また幼児教育・保育における文字の取り扱いについては、文字の視写に関して（崎原，1998：小森，2003）、ひらがな書字の誤字の発生（大庭，2003）、幼児の読字力と絵本理解（中澤，2008）などの研究が行われている。首藤（2013）は、就学前後の読み書きの指導について、小学校で行う文字指導を就学前施設で行うことは学習困難の解決にならないだけでなく、学習困難児の出現時期を早める結果をもたらすと指摘し、個人差に応じた子ども一人一人にふさわしい指導をすることが重要であると述べた。丸山ら（2005）は、幼稚園5歳児クラスにおいて手作り絵本の読み聞かせをしたところ、その園では特別な文字指導といわれる指導は行っていないが、幼児が自発的に物語絵本の制作をはじめたことを報告している。幼児が自発的に文章を書く条件として、文字の字形を覚えて書く技能の習得が前提であること、長期的な見通しを持った教師の援助が必要であること、楽しいばかりの園生活でなく、真剣に挑戦し達成できる課題も含む豊かな内容を持っていることなどが挙げられた。

丸山ら（2005）は、既に多くの文字を書く技能を習得している幼児に関して遊びの様子を報告している。しかし、幼稚園や保育園において文字の習得過程にある子どもたちの保育実践においても、文字を使用した遊びを行うことで、遊びの幅が広がり豊かな保育内容が展開されていると思われる。そこで本研究では、領域「環境」の項目の中から文字に注目し、幼児期の遊びの中で文字がどのように使用され、その使用がどのように遊びの幅を広げているのかについて明らかにすることを目的とする。

II. 方法

幼児が描いた絵や文字の記録、また遊びの様子を観察記録をもとに分析を行う。対象とするのは、A市内にあるB保育園、C保育園の幼児クラスの子どもが描いた絵や保育者に贈った手紙などである。2017年2月～10月までの間、計15回、自由遊びの様子を観察した。その際、園長や担任保育者の許可を得て、遊びの様子を記録したり、描いたものをデジタルカメラにて撮影を行った。

分析方法は、遊びの記録や絵や文字の写真記録のうち、子どもが自ら遊びを広げていると思われるものを抽出し、子どもの遊びに文字がどのような役割を果たしているのかという視点から分析を行う。

保育実践においてどのように文字を扱うかということは、それぞれの園の保育方法と大きな関わりがある。ここではまず観察や文字記録の収集を行った2つの園の保育方法について説明する。B園、C園ともに社会福祉法人立の保育園であり、0歳から就学前の幼児が在籍している。2園ともに保育実践の中でいわゆる「ワークブック」のようなものは行っておらず、子どもが自然に文字を身につけていけるような環境作りを心掛けている。保護者の期待としては、

B園では時々保護者から文字習得への取り組みの要望があるが、担任保育者らが自園の保育方針について説明することで納得しているということである。C園は教育熱心な地域にあるものの、保護者が「特別な文字指導は行わない」というC園のやり方に賛同して入所しているケースが多いということである。保育室の環境としては、2園ともに当番表などにそれぞれの名前をひらがなで記すなど、生活の中で自然と文字を目にするような環境構成が行われている。

Ⅲ. 結果と考察

観察は主に自由遊び場面で実施した。その日の遊びの内容によってはお絵かきや文字を行わない時もあった。また、筆者が観察しない日に幼児が文字や絵を描き、印象的なことがあった場合などは、担任保育者が絵を取っておき、後日、その絵とともにその時の様子を伝えてくれる場面もあった。自由遊び中は2園とも写真1のような風景であり、保育室内に用意されたいろいろな遊びの中から、やりたい遊びを自分で選択し遊んでいた。



写真1 自由遊び時の風景
(B園)

自由遊び時の幼児の文字を使用した遊びについては、いくつかのパターンが見られた。以下説明を行う。

(1) 絵と文字の併用による遊び

自分の好きな絵を描き、その上下左右に描いたものの名前を平仮名やカタカナ、或いはまだ文字とは言い難いような文字で記して遊んでいる(写真2、3)。これらは自分の自由画帳に記されたものであり、誰かに宛てて書いたものというよりは、ただ単純に文字を書く楽しさを味わっていると考えられる。幼児にとって文字を書くということは、文字を媒介として自分の気持ちを伝達するという使用方法以外に、ただ書くことを無心に楽しむという役割があるといえる。

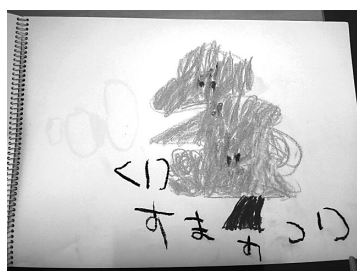


写真2 絵と文字の併用①

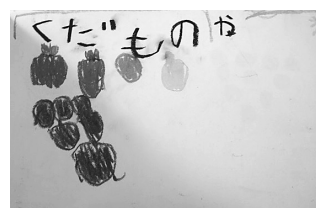


写真3 絵と文字の併用②

ある1名の男児Aは、自由画帳の横長サイズの内紙から線路を発想したのか、一本の線上に私鉄電車の駅名(みかげ、おかもと、しゅくかわ、にしのみやきたぐち等)を次々と記している(写真4)。線路は途中から2本、3本と分岐しており、駅の大きさを表現するものとなっている。その際、駅舎などは描かれておらず、ただ平仮名で駅名が記されているのみである。しかし、この男児Aは文字によって駅を表現しており、そのことで満足し、横へ横へと線路を

つなげ順に書き進めていく遊びを楽しんでいる。描きこまれた線路や列車の様子、一文字ずつしっかりとした筆圧で書かれた文字からは、いきいきと遊ぶ男児Aの様子がうかがえる。

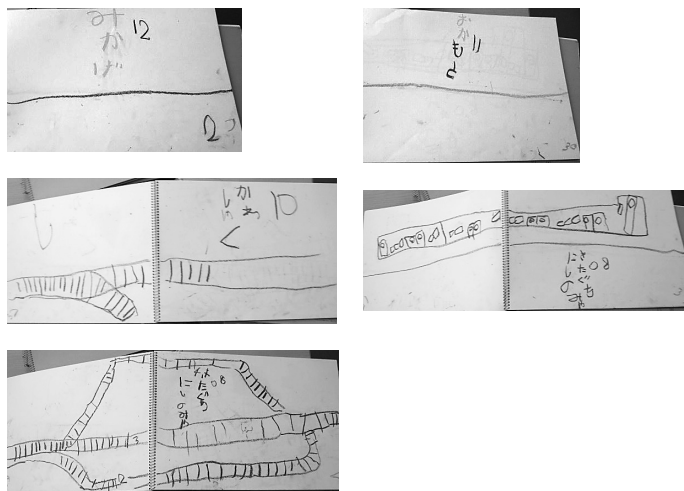


写真4 描かれた線路と駅名

B園では、特に年長児の間で絵本作り遊びが流行していた。幼児や担任の間では「絵本作り」と呼ばれていたが、絵本といっても、自作の自由画帳のように使用し、その時々で思いついた絵や文字を前後の脈絡関係なく描いているものもあった。女兒Bは、「いろいろなごはんの作りかた はじまり」と表紙に文字を書き、最後の頁には「おわり」と描いている（写真5）。しかし、途中のページには、特に表題とは無関係な女の子や花、動物を描いていた。筆者が「これ、いいね。素敵な絵本ね」と声をかけると女兒Bは「うん。絵も描いたし、字も書いている。」「これ私が作った絵本」とページをめくり、絵本の中を見せながら話をした。ストーリーに前後のつながりはなくとも、女兒Bには絵本を作っているという意識があり、そのことを自慢に感じている様子がうかがえる。



写真5 絵本作り①

女兒Cは、自分でストーリーを考え、それに絵を描いて絵本を作ることに熱中していた。「あるひ、まじょが いいことをかながえました。…」など自分でストーリーを作り、登場人物のキャラクターも描き分け、その上何度も同じ人物を描いている（写真6）。絵本作りを通して、絵を描いたり物語を書いたりすることで、自分のアイデアや考えを表現することの楽しさを味わっていると言える。絵と文字を併用して使用することで、遊びはより拡がりを見せ、幼児の発想も豊かに展開されていることが考えられる。



写真6 絵本作り②

(2) 文字を書く満足感を味わう

幼児の絵や文字には、文字の前段階というような記載も多く見られた（写真7、8）。つぶやきながらその内容と思われるものを記述している様子であった。写真7、8は、男児D、男児Eが記述したものであるが、十字や、丸など記号で示されており、一見文字であるとは想像

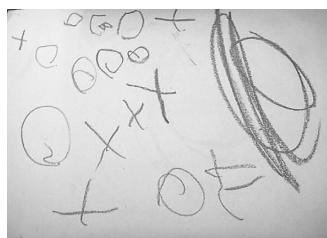


写真7

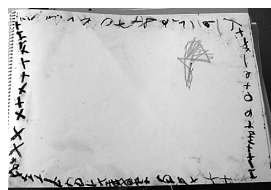


写真8

し難い。しかし、つぶやきの音韻と同じタイミングで書かれていることから、2人にとっては何らかの言葉の表現であると思われる。この男児D、Eの姿からは、誰かに観てもらおうことを目的としない、内なる言語を表出する遊びであったと考えられる。これらの遊びに遭遇した際、大人は「まだ文字が書けない段階の子ども」という視点から見ることもある。もちろんまだ文字が書けない幼児が、文字への憧れや、「書いてみたい」という気持ちを保持して、文字を「書いたつもり」で遊んでいる姿は容易に想像することができる。しかし、男児D、Eにとっては、この文字（記号）を記すことは、自分の気持ちを表現する遊びとなっている側面も考えられる。大人は、このことを単に幼児の文字を書くことへの憧れということだけでまとめるのではなく、幼児が書くことに熱中している「いま」の姿を捉える必要があるだろう。

写真9～11は、ある程度文字として認識可能な状態になっている。自分の知っている文字を書く（写真9）、漢字を書く（写真10）、「かわのいし、おけらのこども、かえる、とのさまがえる、ざりがに、かめ」など鏡文字なども含めて記述（写真11）など、それぞれ書きたいことを表現する様子が見られた。写真9、10については、自由画帳にまだ余白はあるものの次のページを開き、ほぼ同様のものを書いていた。このことから、幼児にとってはページをめくることが遊びの1つとなっており、文字様のものを書くことは、年上のきょうだいや親、保育者の行動を真似た、みたくて遊びになっていることが考えられる。写真11の文字を書いた女児Fは、手元に絵本を置いて、その中の文字を真似て書いていた。絵で表さず黒いクレパスのみで書いた文字からは、他者に見せるための「作品」などという意識はないと思われ、「書きたいから書く」というような、ただただ書くことで満足している女児Fの姿が浮かび上がる。

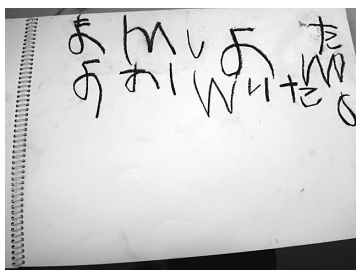


写真9

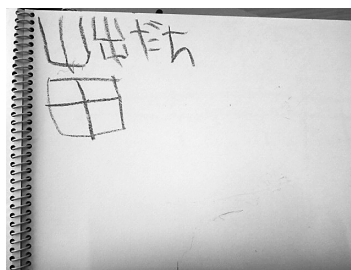


写真10

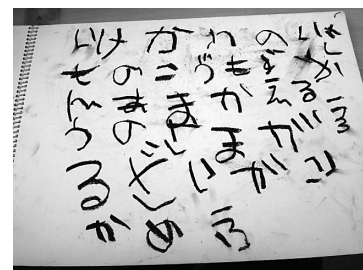


写真11

(3) 他者を意識した文字

子どもの記述には自分や友達の名前を記載したものが多く見られた（写真12）。写真12は、先述の「絵本」に描かれており、クラスの友だちの名前が升目の中に1文字ずつ書かれている。その下には○と×のような印がつけられている。この遊びについては遊びの様子が観察できておらず、また当該幼児にも話が聞けなかったため、どのような遊びであったかは不明であるが、学校ごっこ出席簿に使用されていたのか、或いはゲームの勝敗が記されていたのか、どちらにしても子ども同士の活動の中で、自分たちの遊びのルールを作りだし、そのルールを楽しむ姿があったことが考えられ

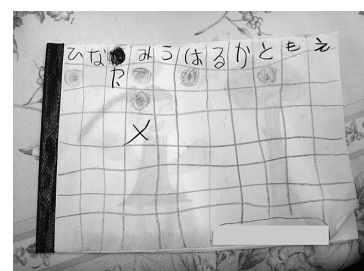


写真12

る。幼児は、他者と関わることで遊びを創り出し、繰り返し遊ぶ中でさまざまな経験を蓄積させ、集団で楽しさやそれに伴うルールを身につけている。その際、文字を使用することで、遊びの方法が共通理解しやすくなったり、イメージの共有が行いやすくなるという利点があると考えられる。

他に、他者を意識した遊びとして、保育者や家族などに宛てた手紙があったことが挙げられる。写真13は母親に宛てたもので、絵と「ママ、いつもいろいろ…」という文字が記されている。写真14は、女兒Gが保育者に宛てて描いたものである。その際、文字を太く塗りよく見えるような工夫がなされている。その内容については、「〇〇せんせい だいすき まけてくやしかな」と運動会ごっこでの勝負に負けたことについて自分の気持ちを表現している。ただ書きたいから書くのではなく、他者を意識して相手に伝えたいことを考えて書いている姿がうかがえる。また、下方に描かれた2人のヒトの絵のうちの1人は、手紙を宛てた保育者の髪形に似せて描かれており、ここにも保育者を喜ばせたいという女兒Gの気持ちが表出していると思われる。



写真13

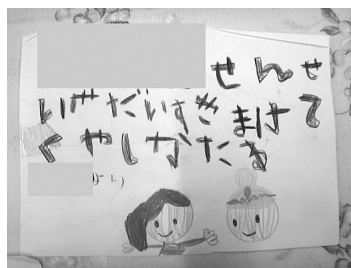


写真14

写真15は女兒Hが担任保育者に宛てた手紙である。「〇〇せんせい だいすき」と書いた手紙を担任保育者に手渡している（写真16）。その際、担任保育者の背後から抱きつき手渡すと、担任保育者は「わぁ。ありがとう。大好きって書いてある。嬉しい」と喜びを伝え、女兒Hとともに手紙を読んだ。それを聞いた女兒Hは担任保育者にさらにぎゅっと抱きつき、喜びや照れを身体全体で表現していた。保育実践において文字を使用する際、一斉指導などで教えこむのではなく遊びの中で身につけられるようにすることが求められているが、これらの事例のように身近な人に手紙を書くという遊びは、まさにこれに適した遊びである。それとともに遊びの中で、他者との関係性を深めることを可能にし、もっと書きたい、読みたいという意欲を高めることができる活動の1つであると言える。

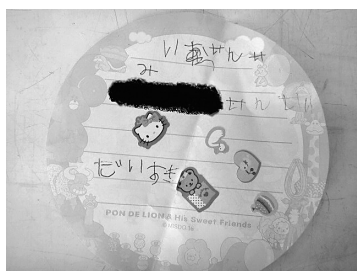


写真15 保育者に宛てた手紙



写真16 手紙を渡す様子

写真17は、文字を書けない男児Iが書いた手紙である。男児Iが手紙を書いた後、担任保育者に告げにきた言葉を、直後に担任保育者がメモし、後日筆者に見せてくれたものである。写真17は、「とうめいにんげんさん、元気？どこにいるの？」と、写真18は「とうめいにんげんさんへ つなひきがんばるよ ○○くみより」と書いたと男児Iが伝えたということである。筆者は、当初写真17も18も大きな変わりはないと捉えており、2つの違いをそれほど意識していなかった。男児Iが文字を使用せずとも、自分の記述した内容について口頭で説明できるというところに意識を向けて、担任保育者の話を聞いていた。話を聞いた数週間後、男児Iが書いた手紙の内容を担任保育者に再度確認した場面のことである。担任保育者は、「違いますよ。こっち（写真18）は、『つなひき頑張る』って書いているんですよ」とメモを見ることなくスラスラと答えた。筆者は、幼児が自己の記述に意味づけをしたという事象にのみ注目をしており、どちらの写真が何を表現しているかということにはあまり関心がなかった。しかし、担任保育者は「このことを伝えようとして書いた」という「その時」の男児Iの心情を理解することを重視しようとしていた。担任保育者は、文字が書ける・書けないといったスキル獲得の面からではなく、子どもの声に耳を傾け、「その時」子どもが何を考え、どう遊んでいるかということに注目し、保育実践を行っていると考えられる。

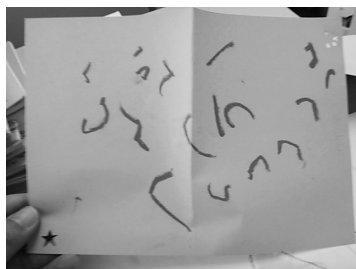


写真17

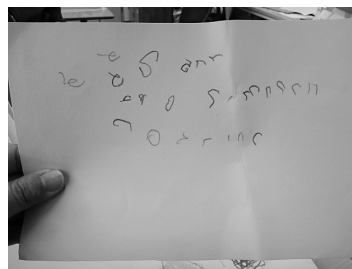


写真18

IV. おわりに

幼児の文字を使用した遊びには、(1) 絵と文字の併用による遊び、(2) 文字を書く満足感を味わう、(3) 他者を意識した文字があることが明らかになった。その中で、文字を使用することで自分のイメージや気持ちを明確に表現したり（写真4、17、18）、他者とつながったり（写真12、14、16）、自分のやりたいことを深める（写真6、7、8、11）など、文字を使用することによる遊びの拡がりが見られた。文字の使用というと、文字習得のみに注目しがちであるが、本研究では子どもの文字を使用した豊かな遊びや、それを支える保育者の関わりが確認できた。スキル獲得を目指した文字との関わりでなく、本研究で見られたような多様な文字遊びの在り方こそが、自然と文字に触れる機会を増加させるものとなり、この蓄積が幼児の力を高めていくのではないだろうか。

引用文献

- 無藤隆（2017）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿） 無藤隆（編著）平成29年告示幼稚園教育要領 まるわかりガイド. チャイルド本社. 26-27.
 崎原秀樹（1998）幼児における文字の視写の発達的变化—文節・構成の観点からの検討—, 教育心理学研究, 46(2), 212-220.

- 小森伸子（2003）幼児のかな文字視写を成立させる要因についての検討. 発達心理学研究. 14, 14-24.
- 大庭重治（2003）就学前後の平仮名書字における誤字の発生とその変化. 上越教育大学研究紀要. 22(2), 529-537.
- 中澤潤・泉井みずき・早瀬奈津代・下村直子（2008）幼児の読字力と絵本のストーリー理解. 千葉大学教育学部研究紀要. 56, 111-115.
- 首藤久義（2013）就学前読み書き指導の原理. 千葉大学教育学部研究紀要. 61, 255-262.
- 丸山良平・小林秀智（2005）幼稚園5歳クラス児の物語絵本の制作活動とそれを支える教師の援助. 上越教育大学研究紀要. 25(1), 229-242.